

学 校 名	山 形 市 立 第 五 中 学 校	校 長	小 関 徳 雄
	990-0053 山形市葉師町一丁目14番10号 TEL 622-0559 FAX 633-9802	研究主任	齋 藤 匡 広
研 究 主 題	他との関わりを生かして自己の伸長を目指す生徒の育成（3年次）		
主 題 設 定 の 理 由	本校教育目標「五中生らしく、自立して誠実に生きる生徒を育成する」を受け、本校の生徒の現状を見たところ、 あいさつを通して温かい関係を築こうとする意識を持って生活しており、学習に関しては新たな事柄を積極的に受け入れようとしている姿勢もしっかりしていると思われる。 さらに生徒を伸ばすには、自己を主張しながらも仲間と協力し合い、よりよいものを追求する心を育てていく必要があると考えた。その一つの手段として、集団への帰属意識を高めさせ、自分は集団の中で何ができるのか、自分は集団へどの程度貢献しているのかを考えさせることで、自分を高める動機付けにしたいと考えた。 また、温かい人間関係を築こうとする中で、相互の取り組みを認め合う意識づくりも自己の伸長に大きくつながるのではないかと考えた。		
研 究 の 目 標	① 研究仮説の検証を通し、学校教育目標の具現化を図る ② 研究内容の共通理解と研究の日常化、計画的に授業研究会を実施する		
	今年度の課題 ① 「受けとめ、伝え、討論する力」を意識した指導 ② T Tや選択学習など個に応じた指導の実践		
研 究 の 仮 説	研究仮説 【 教科の時間 、 道德・学活の時間 、 総合的な学習の時間 】 において、 互いを認め合う意識を持ちながら、集団の中での自己の存在価値や集団への貢献度に気づくことができる学習活動や学級活動（係活動） を進めれば、 協力し合う人間関係が生まれ、自発的に自己を伸ばそうとする意欲を喚起することができる であろう。		
	仮説検証の方法 ① 日常の学校生活や授業の中で、アンケートなど他者評価を積極的に取り入れ、互いの考えや取り組みがどのような位置付けにあるのかを意識して指導に生かしていく。 ② 協力し合う人間関係については、生徒活動全般において教師の観察で評価していく。 ③ 自発的に自己を伸ばそうとする意欲が喚起できたかについては、生徒の自己評価と教師の観察によって確かめていく。		

研 究 の 内 容 と 方 法	手立ての具体化 ①「受けとめ、伝え、討論する力」を具体的に位置づけて指導を行う。 ②他とかかわり合う場や発表する場を設定し指導を行う。 ③生徒の取り組みに対する適切な評価を行う。 ④単元を見通して指導計画を立てることにより、基礎・基本の効率的な定着を図る。 ⑤適切な自己主張訓練などを通して発表力の基礎を養う。 ① 3カ年を一つのサイクルとして研究に取り組むこととし、各年度の実践を積み重ねながら、当初の目的に迫ることとする。 ② 日常の教育活動との連携・連動した下記研究部を設けて研究の効率化と活性化を図る。 道徳・学活部、総合学習部、教科部 （各教職員は道徳・学活部か教科部のいずれかに重点を置いて研究する） ③ 各部の研究の進捗状況を研究推進委員会で確認し、必要に応じて研究方向を修正する。 ④ 年度毎に重点項目を定め、その達成を目指す。
研 究 計 画	研究日程 5／16 第1回 研究推進委員会(研究構想) 5／19 全体研修会①（本年度の研究構想） 7／9 第2回 研究推進委員会(研究計画、研究方向) ・各教科、各研究部の研究計画の確認 8／28 第3回 研究推進委員会（授業研究会） 11／12 第4回 研究推進委員会（特別授業研究会） 11／28 全体研修会②（特別授業研究会） 11／30 全体研修会③（講演会の予定） 2／9 第5回 研究推進委員会（今年度研究の成果と課題、来年度の方向） 2／16 全体研修会④（今年度研究の成果と課題、来年度の方向） 各 教 科 授 に 業 て 研 究 会